

教育高度化への取組み

①教員免許状更新講習

滋賀大学では、毎年、教育職員免許法に基づき、教員の職務遂行に必要な「最新の知識技能」の修得と、有効期間の更新を目的として、文部科学大臣の認定を受け、教員免許状更新講習を開設しています。

2019年度は大津キャンパスにて、8月5日(月)に必修領域1講習、6日(火)に選択必修領域9講習、7日(水)から9日(金)に選択領域28講習をそれぞれ開講しました。

講習には、県内外から718名の教員免許状を有する方々が受講されました。連日の猛暑のなか、各講習において熱心に取り組まれる受講者の姿がありました。

開催にあたりましては、受講者の皆様をはじめ、多くの方々のご協力をいただきましたこと、この場を借りて心からお礼申し上げます。受講者の皆様が、今回の講習の学びをそれぞれの教育現場で活かし、ご活躍されることを祈っております。

開講講座一覧

(必修領域)

| 開講日 | 講座名 | 内容事項 |
|---------|-------------|--|
| 8月5日(月) | A-1 教育の最新事情 | a: 国の教育政策や世界の教育の動向 b: 教員としての子ども観、教育観等についての省察 c: 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見 d: 子どもの生活の変化を踏まえた課題 |

(選択必修領域)

| 開講日 | 講習の名称 | |
|---------|-------|---------------------------------|
| 8月6日(火) | B-1 | 近年の自然災害と学校防災 |
| | B-2 | 就学前教育と子どもの発達 ー近年の状況変化と新たな課題ー |
| | B-3 | 学校をめぐる近年の状況変化と新たな課題 |
| | B-4 | 「道徳の教科化」と授業の充実 ー考え、議論する道徳ー |
| | B-5 | 教育理念を共有しながら進める学校、園、地域社会との連携及び協働 |
| | B-7 | 教育における心理的支援Ⅰ |
| | B-8 | 教育における心理的支援Ⅱ |
| | B-9 | ソーシャルメディア社会における諸課題とICT活用 |
| | B-10 | 心のバリアフリーと学校における交流と共同学習の推進 |

※B-6は開講中止

3. 人材育成活動

(選択領域)

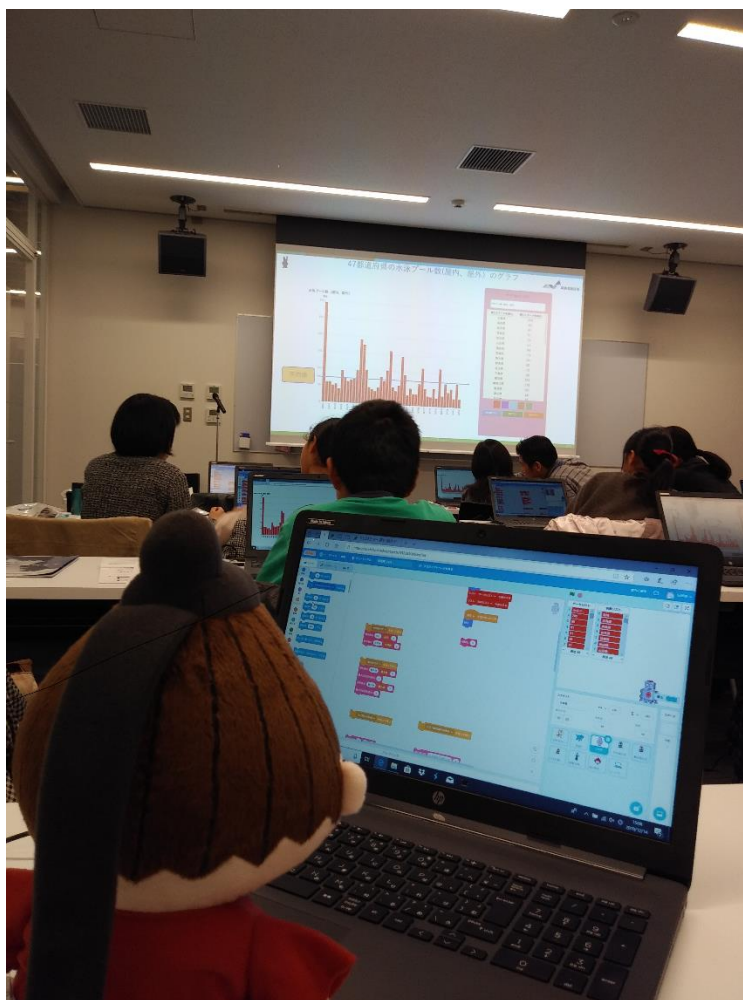
| 開講日 | 講習の名称 | |
|---------|-------|------------------------------------|
| 8月7日(水) | C-1 | 特別支援教育Ⅰ |
| | C-2 | 心と身体健康Ⅰ |
| | C-3 | 体験的環境学習への招待 |
| | C-4 | 掲示物製作やポスターセッション学習を通して集団づくりの基礎を育てよう |
| | C-5 | 子どものための統計活用 |
| | C-6 | 幼児体育と小学校体育科の円滑な接続のあり方 |
| | C-7 | 身の回りの事象と数学 |
| | C-8 | 小学校におけるプログラミング教育 |
| | C-9 | 幼児教育の質を高める |
| 8月8日(木) | D-1 | 特別支援教育Ⅱ |
| | D-2 | 子どもに安全で易しい体育的活動を提供する |
| | D-3 | データサイエンス入門・コンピュータを使ったデータ処理 |
| | D-4 | 入門アート ー障害をもつ人達の表現からー |
| | D-5 | 今につながる昔の言葉 |
| | D-6 | 外国語へのいざない |
| | D-7 | 社会科の授業づくりの理論と実践 |
| | D-8 | 中高教員のための理系講座 ー物理領域とアクティブラーニングー |
| | D-9 | 保育者の資質向上 ー幼児理解と環境の工夫ー |
| | D-10 | 豊かな感性を育む ー音楽と絵本ー |
| 8月9日(金) | E-1 | 心と身体健康Ⅱ |
| | E-2 | 言語と文化 ー当たり前前のが当たり前でない世界ー |
| | E-3 | 保健と体育の実践的指導を考える |
| | E-4 | 「言葉がもつよさ、言葉による伝え合う力」について考える |
| | E-5 | 小学校教員のための理科講座 ー天文領域と化学領域ー |
| | E-6 | 日本の音のいま／むかし |
| | E-7 | 歴史学に触れる ー史料は怖くないー |
| | E-8 | 家庭科 ー衣生活と食生活ー |
| | E-9 | 保育者養成の現状と幼児教育方法の理解 |

②子ども統計プログラミング教室

12月14日(土)、長浜市のさざなみタウンで「子ども統計プログラミング教室」を開催しました。この教室は、滋賀大学、総務省統計局、長浜市、彦根長浜地域連携協議会の四者が共催し、滋賀県教育委員会および長浜市教育委員会の後援を得て小学5、6年生を対象に開催したものです。

開催にあたり、須江雅彦理事から「これからはデータの統計やコンピューターのプログラミングができる、ということがとても大切になります。この教室をきっかけに統計やプログラミングに興味を持ってください」と挨拶があり、リトルスタジオインク株式会社代表取締役の町田保氏が講師を務め、プログラミングの基礎を学習しました。

受講した小学生は、分からないことがあると大学院生のアシスタントに質問するなど、熱心に受講していました。終了後は、「自宅でもプログラミングに取り組んでみたい」「学校の授業にも役立てたい」と意欲を持ってもらうことができ、充実した子ども統計プログラミング教室となりました。



子ども統計プログラミング教室で学ぶ
滋賀大学公式キャラクター「カモンちゃん」

③地域連携教育研究事業

担当部局：教育学部附属教育実践総合センター

事業概要：

[概要] 滋賀県・県内市町教育委員会及び学校と連携した共同研究及び教育実践活動の実施

[目的] 滋賀県総合教育センター及び各学校における教育研究課題について、滋賀大学教員・学生と共同研究・実践活動を実施し、地域に根ざした大学として寄与すること。

[必要性・重要性] 地域に根ざした大学として、滋賀の教育機関と連携することは必要であり、滋賀県の教育の充実にとって重要である。

実施方法：

連携型地域共同研究(滋賀県総合教育センター)

滋賀県総合教育センターの研究課題に対し、教育学部教員と共同研究を行う。

応募型地域共同研究(教育委員会及び学校)

教育学部教員と教育委員会・学校との共同研究を募集し、地域と連携した教育研究活動を推進する。

学生参加型教育実践プログラムの実施

教育委員会・学校と連携し、学生が参加することを通して教育実践課題の解決を目指す。

期待される効果：

地域に根付いた滋賀大学としてのプレゼンスを確立するためには、地域との連携・協力は必要であること、そして滋賀の教育課題の解決に寄与できることが期待される。また、学生が教育実践に触れ、今直面する教育課題に関わることで教師力の向上に寄与することが期待される。いずれも、本学部の教育養成への効果は十分にあると考えられる。

成果の概要及び今後の活用：

滋賀大学教育学部附属教育実践総合センターは、滋賀県総合教育センター、滋賀県教育委員会、県内の市町教育委員会、学校園(県内の幼稚園、小学校、中学校、高校、附属学校)等と連携して、22件の地域共同研究を実施した。それぞれの研究成果は、地域の教育課題の解決に貢献できていると考えられる。また、本学の教員並びに学生と地域関係機関との関係が深まり、連携協力が継続することが重要である。今後は成果を発信することで、新たな教育課題の解決に向けた取組みへと繋げていく必要がある。

本事業の成果についての詳細は、教育実践総合センター年報として取りまとめ、ホームページにより公開している。その中から特に教育委員会からの依頼により実施された共同研究を中心に社会連携活動助成を活用して支援を行った。それらの研究については、本年報の24～27頁で紹介している。他の研究成果については、教育実践総合センター年報を参照していただきたい。

教育実践総合センター年報 第3号 共同研究事業

| | |
|---|---------|
| 1-1) 研究員派遣による学校支援に関する研究(理科) | (藤岡 達也) |
| 1-2) 滋賀県学校安全教育推進プロジェクト | (藤岡 達也) |
| 1-3) プログラミング教育プロジェクト研究 | (松原 伸一) |
| 1-4) 外国語プロジェクト研究 | (大嶋 秀樹) |
| 1-5) 科学的に探求するために必要な資質・能力の育成を目指した高等学校理科の授業改善 | (加納 圭) |
| 1-6) 書くことで自分の学びを豊かにすることができる子どもの育成 | (長岡 由記) |
| 1-7) 算数・数学科における学びのつながりをめざした授業改善 | (渡邊 慶子) |
| 1-8) 滋賀県における幼児の運動能力に関する研究(2019年度) | (奥田 援史) |
| 1-9) 滋賀県高等学校部活動における指導者リーダーシップに関する調査研究 | (奥田 援史) |
| 1-10) 子どもが自分の考えを表現し合うことを通し、主体的に課題解決に取り組む授業をめざして | (畑 稔彦) |
| 1-11) 中学校に設置された通級指導教室における指導・支援のあり方について | (窪田 知子) |
| 1-12) 理科指導力向上研修の企画研究 ～小学校理科 観察実験指導コツを学ぶ～ | (糸乗 前) |
| 1-13) 理科指導力向上研修の企画研究 ～苦手分野から応用まで～ | (徳田 陽明) |
| 1-14) 生徒が主体的に学び、確かな学力を身につけるための学習指導 | (畑 稔彦) |
| 1-15) チームで考える授業づくりⅡ「若手・中堅教員を育てる教材開発プロジェクト」 | (新関 伸也) |
| 1-16) 鑑賞学習ルーブリックを活用した授業実践に関する研究Ⅱ | (新関 伸也) |
| 1-17) 特別支援学校における音楽づくりの授業開発プロジェクト(2) | (林 睦) |
| 1-18) 通級指導教室等の子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究(3) | (川島 民子) |
| 1-19) 学力向上プロジェクト | (畑 稔彦) |
| 1-20) 石山っ子わくわく親子で畑体験隊 | (森 太郎) |
| 1-21) 地域の伝統野菜の栽培を核としたカリキュラム・マネジメントモデルの開発 | (森 太郎) |
| 1-22) 学校アート化計画 『グリーンちゃんがやって来た』 | (藤田 昌宏) |